

和尚の小部屋 13. 明神山古道プロジェクトのその後! (文責・玉井 敬信)

林野庁75%、愛媛県25%、伊予市25%の出資比率で実施される「森林・山村多面的発揮対策交付金」事業は、3年間で1セットの補助金事業です。初年度は一昨年の2020(令和2)年度から始まり(新聞第12~13号を参照)、人が集まって作業することが厭われるコロナ禍が長引く状況の中、次年度にあたる昨年2021(令和3)年度も、愛媛大学の笠松浩樹先生及び所属の学生さん達の協力を得て、何とか無事に実施することができました。最終年度の今年2022(令和4)年度の申請も6月中に県の方に無事採択して頂き、上記愛大笠松先生方と共に11月中旬に安全講習会を開催し、その後、森林整備を予定しています。昨年度までに当該整備森林区域までの林道全450mの内、コンクリート敷設部分以外の獣道部分約200mの拡張工事も終了し、格段に歩き易くなっています。本年度は、整備森林区域の間伐材を使って休憩デッキを製作する予定ですが、乞うご期待です!また、当該補助金終了後は、何らかの形で明神山への登頂登山イベントの開催、山頂の水之明神社の祠及び中腹の石鎚社の石御室の復活等、再生整備した森林・古道を「活用」していく活動を実施していきたいと考えていますので、引き続きご協力をお願いいたします!



よつこそー三秋へ
(文責) 原田 浩明

最近、三秋地区に移住して来られた福西さんご一家をご紹介したいと思います。こちらのご一家は、ご主人様同士がご兄弟で、2世帯7人が同居されています。お兄さんの孝治さん一家は、伊予市森地区から、弟さんの貴彦さん一家は、大洲市から、それぞれ移住されてきたとのこと。移住されて約1年経つのですが、三秋地区について、優しくいてい人が多く、散歩に良い環境で、地域で行われるイベントがとても楽しいと仰っていました。ただ、イノシシが自宅近くに出没することがあり、小さなお子さんが仰っているので、その点が心配も仰っていました。

みあき写真館 特別編 (写真) 日山 貞治



【タイトル】
「黄色い恋(鯉)」
三秋大池の、洪水吐け付近で見ることができました。体長は50cmぐらいだったでしょうか。三秋大池に行くと、見ることができるともいれませんが、映画の「幸福の黄色いハンカチ」ではありませんが、何か良いことがあるかも?



【タイトル】
「がんばるペチュニア」
道路の片隅、コンクリートの境界壁とアスファルト舗装の間で、ひっそりとがんばっているペチュニアです。昨年の花の種が隙間に入り込んで、春から成長したのでしょうか。今では、りっぱな花を咲かせています。



こんにちは赤ちゃん
(文責) 稲多 早生田

5月20日、三秋新聞委員長の原田浩明・夏子さん夫妻に待望の赤ちゃんが産まれました。お名前前は、「侑虎(ゆうと)くん」です。

名前の由来は、浩明さんに「今年は何十年に1回の寅年だからね」と言われ、調べてみたら「今年(寅)の干支は、「壬寅(みずのえとら)」で、「新生(みずのえとら)と、や「生」を意味し、縁起が良いそうなんです。また、2022年は五黄の寅年とも言われ、十二支と九星術の組み合わせの中でも最も運気が強いとされています。ちなみに、五黄の寅年生まれの有名人は、徳川家康、上杉謙信です。うーん、運気の強さも納得のお二人ではないでしょうか。そういったことも踏まえ、お子様のお名前前に「虎」を使ったようなんです。

三秋に新しい命が誕生すること本当に貴重であり、地域のみんなが、守り育てていきたいですね。浩明さん・夏子さん、おめでとうございま



原田夫妻と侑虎くん

私の子育て談
(文責) 稲多 勝利

ひろ君、夏子さん、赤ちゃんご誕生おめでとうございませう。私も、五十年前の事を思い出しました。誰でも子育ては、初めての事ばかりで、大変なものです。その中でも、元氣な子どもを育てるという観点から、病気に関するお話をさせていただきます。

小さな子どもや赤ちゃん、一番の病氣は、風邪です。「風邪は万病のもと」と言われています。ある時、お風呂から出て、暑そうに汗をびっしょりかいている赤ちゃんを見て、大人と同じように扇風機に当ててあげたら気持ちいいかなと思って、涼しい風を送りました。しかし、それは大人の考えで、赤ちゃんはダメで、忽ち風邪をひかせてしまいました。私は、今でもその事を一番に思い出します。

それともう一つ、私の経験談とはちょっと意味が違いますが、子どもでも大人でも、風邪をひくと、必ずと言っていいほど、喉が痛くなります。そして、扁桃腺が腫れます。そして、扁桃腺の熱が出ます。そして、腎臓病、心臓病、その他の病気になるります。私の友人も腎臓病で若くして亡くなり、私の姉も心臓病で亡くなりました。昔は、良い薬や抗生物質がない時代でしたから、保



色とりどりのアジサイ
(文責) 日山 貞治

アジサイは、アジサイ科の落葉低木で、日本に自生しているガクアジサイが原種です。園芸品種がとても多く、ヨーロッパで品種改良された西洋アジサイ(ハイドランジア)やアメリカアジサイ(アナベル)などがあります。

額咲きタイプのアジサイ

手まり咲きタイプのアジサイ



庭や、道路端の一角などで、アジサイが植えられています。額咲きタイプや手まり咲きタイプ、がくにも一重や八重、胡蝶タイプや細長いタイプなど様々です。

三秋地区では、多くの家庭の庭や、道路端の一角などで、アジサイが植えられています。額咲きタイプや手まり咲きタイプ、がくにも一重や八重、胡蝶タイプや細長いタイプなど様々です。

アジサイは、花の中央にある両性花は極小で、その周辺にある4枚の萼(がく)が大きく発達した装飾花が目立ちます。また、花の色がよく変わることで「七変化」とも呼ばれ、土壌の酸性度(PH)によって、酸性の土なら青、アルカリ性の土なら赤になると言われています。



竹楽器製作キット



キュウリの詰め放題と野菜の販売



三秋川のクレソン



放置竹林の竹で作ったピン

モルックの体験



クレソンのアップ写真

新しい地域のつながり
を生み出してみよう
(文責) 原田 浩明

去る7月23日、「西予市地域人材育成セミナー」が行われました。全6回行われるうちのこの日は、伊予市民と交流しながら進めていく内容で、あつたため、特別に参加させて頂きました。会場の伊予市役所では、東京都世田谷区尾山台にて地域活動を行っている、高野雄太さんを講師に、尾山台での様々な活動が紹介され、伊予市役所でも5月に、二本橋付近のクレソンは、駆除されました。

クレソンはフランス語で、明治時代の初めに西洋野菜として導入され、若い葉は独特の香りのほか、ほのかな苦味ピリッとする辛味があり、肉料理の付け合わせやサラダの材料として利用されます。

今では、外来種(帰化植物)として各地の小川で野生化し、要注意の外来生物に指定され、駆除されている地域もあります。三秋地区でも5月に、二本橋付近のクレソンは、駆除されました。

クレソンのアップ写真



スライドを使って解説する高野さん

三秋フェア町家 in 2022
(文責) 原田 浩明

新しい地域のつながり
を生み出してみよう
(文責) 原田 浩明